

鶴田町振興作物（ブロッコリー）の
ス　ス　メ

— 鶴田町 —



○鶴田町振興作物とは？

鶴田町では、町農業生産力の向上と経営の安定を図るため、町が指定する作物（振興作物）の作付けを行う農業者に対し、補助金を交付し支援をおこなっています。

鶴田町の振興作物は、『収益性が高く、主力作物の支障とならない作物』であるブロッコリーで、これらの新規作付および規模拡大に対し、補助金を交付します。

ブロッコリー

【経営指標の目安】

- ・標準経営所得：経費差引後 **12.2万円**／10アール（所得率34%）
- ・標準労働時間：94時間（12日*）／10アール
*8時間で1日と換算した場合

（H29年3月発行 西北地域県民局地域農林水産部作成 野菜栽培の手引きより）

○交付対象者の要件（すべて満たす必要があります）

- （1）鶴田町に住所を有する者であること
- （2）本人及び世帯員に町税等の滞納がないこと
- （3）補助金交付後においても肥培管理及び出荷を継続できる者であること

○補助金額について

区分	内 容
①新規作付事業 (新規に作付を行うもの)	対象経費：初期投資費用 (種苗費、肥料農薬費、資材費) 補助率：4分の3（上限193,000円） 要件：作付する面積が2アール以上
②規模拡大事業 (作付規模を拡大するもの)	対象経費：拡大に伴う投資費用（新規作付と同様） 補助率：2分の1（上限129,000円） 要件：規模拡大事業面積が2アール以上

○申請方法

希望される方は役場 産業課 農業振興班へ事前にご相談ください。

その後、申請書、経費を証明する領収書の写しを提出のうえ、現地確認を経て交付決定し、交付となります。

I ブロッコリー

1 経営の特徴

- 初期投資が少なく、栽培技術も比較的優しいため、初心者でも取り組みやすい。
- 農協が共同育苗、共同選果を行っているほか、定植機の借り受けができる。
- 植え付けから収穫までの期間が約2か月と短く、労働時間も比較的少ない。



○10aあたりの収益性

粗収益(円)	経営費(円)	所得(円)	所得率(%)
365,000	242,439	122,561	33.6%

※単収750kg、価格487円/kgとした場合

出展:野菜栽培の手引き 平成29年3月(西北地域県民局地域農林水産部)

○主な作業と10aあたりの労働時間

作型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計				
6・7月収穫		定植	追肥・防除	収穫							
労働時間(10a)		4	4	5	2	10	33	31	5		94

労働時間:野菜栽培の手引き 平成29年3月(西北地域県民局地域農林水産部)から引用

2 作型

作型	特徴
6・7月収穫	4月中旬～5月上旬に定植し、6月上旬～7月上旬にかけ収穫。主力の水稻やりんごの作業と比較的競合しない。

3 主要品種

品種名	早晚性	特性
すばる	中早生	草姿は半開張型でコンパクト。花蕾は形の良い丸形になり締まりも良い。側枝の発生はやや多く早蒔きや多肥でいっそう多くなる。
おはよう	中早生	草姿は極立性で草勢やや強い。花蕾位置はやや低い、花蕾は小粒、濃緑色で極ドーム形、花蕾形状の安定性は高い。低温時のアントシアニン発生がなく、茎の空洞症も少ない。

4 畑の準備

- ・完熟堆肥、土壤改良資材は定植約10日前に施用する。
- ・基肥は定植7日前に施用する。
- ・根こぶ病が発生すると収量が著しく減少するので、連作は避ける。

【施肥の例】10a当たり

肥料名	基肥	追肥	チツソ	リンサン	カリ	備考
完熟堆肥	3,000					
苦土炭カル	140					pH6.0～6.5必要量※1
化成肥料484	100		14.0	18.0	14.0	
S646		60	9.6	2.4	9.6	又はNK※2
合計			23.6	20.4	23.6	

※1 新規畠では土壤分析に基づいて、マググリーン等を追加する。

※2 追肥にNKを使用する場合は葉ヤケに注意する。

5 定植

(1) 栽植様式(10a当たり)

項目 作型	栽植様式(1条植え)			128穴セルトレイ の必要枚数	品種名
	うね幅	株間	栽植本数		
6・7月収穫	75cm	35cm	3,810	30枚	すばる、おはよう

- ・定植は本葉3～4枚(は種後20～30日頃)が適期である。
- ・定植作業は、曇りの風のない日や日射が弱くなる午後に行う。
- ・定植前にセルトレイ苗にかん水を行う。
- ・子葉が地上に出て、セルが土に埋まる深さに定植する。
- ・低温期の定植(平均気温10℃以下、最低気温5℃以下)は、異常花蕾(ボトニング)の発生リスクが高まるため、無理な早植えは避けるか、べたかけ等の保温対策を行う。



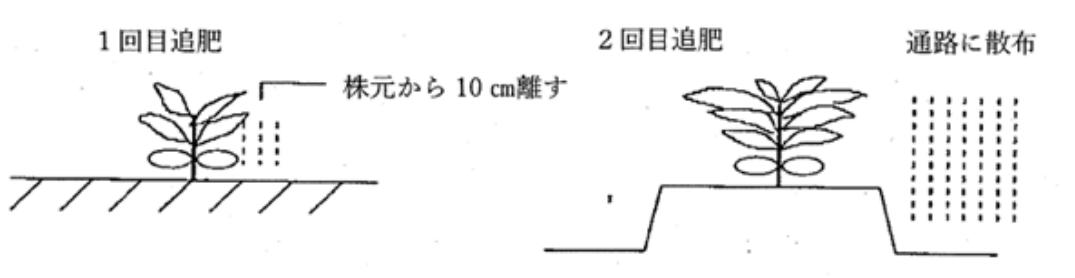
【異常花蕾：ボトニング】

葉数が少ない小株に花芽分化が起こり、花蕾が極めて小さくなる

6 定植後の管理

(1) 追肥・中耕

- ① 第1回目は株元から10cm離して追肥し、雑草が多い場合は中耕する。
 - ② 第2回目は通路に散布し、除草のために管理機で土寄せを行う。
- ※ 定植30日以降は土寄せなど機械作業をなるべく行わないようにする。



【追肥回数・量】 (10a当たり)

回数	肥料名	施用量	追肥時期
1	S646	20kg	定植7日～10日後
2	S646	40kg	定植30日後(土寄せ時)

<ポイント>

- ① ブロッコリーは茎葉が大きいほど「花蕾」が大きくなるので、着蕾までに茎葉の生育を確保する。
- ② 着蕾期以降に肥効が強くなると異常花蕾（リーフィー等）が多く発生するので、追肥は遅れないようにする。



【異常花蕾：リーフィー】

花芽分化時の低温感応不足や花芽分化直後の高温、チッ素过多で、花蕾の中に小葉片が発生する。

(2) 病害虫防除

①コナガ・アオムシ

- ・ 降水量が少ないと発生量が多くなる傾向にある。
- ・ 発生状況に応じて、登録薬剤で防除を行う。特に老齢幼虫になると薬剤の効果が劣るので、卵及び若中齢幼虫のうちに、十分な薬液量を葉裏にもしっかりと散布する。



【コナガの食害】

②軟腐病

- ・花蕾部に発生しやすく、発病部分はアメ色で水浸状に軟化腐敗する。葉に発生すると黄褐色の腐敗斑を形成し、悪臭を放つ。
- ・高温多湿、特に降雨が続いたときに多発しやすいため、降雨が続く場合は、登録薬剤で防除を行う。
- ・収穫後でも腐敗することがあるため、収穫時に発病果が混入しないよう注意する。



③根こぶ病

- ・晴天に地上部がしおれ、その後、外葉から枯れ始め、株全体が枯死する。
- ・アブラナ科作物を連作すると発生が多い。また、気温や地温が高く、多雨の場合に被害が大きい。
- ・根こぶ病発生ほ場には作付しない。
- ・排水対策や土壤pHの矯正、定植ほ場の登録薬剤の土壤混和等で被害の軽減対策を行う。



7 収穫

- ・JAの規格に応じて収穫を行う。
- ・花蕾が十分に発育し、花蕾群表面が一様になっている「開花直前」のものを収穫する。
- ・収穫は朝の涼しい時間帯に行い、品温が上昇する前に集荷場に搬入する。